

LNG アセスメントメソドロジー

2026年4月1日更新

市場環境の変化に合わせ、下記の点を変更した。

- ①DES Northeast Asia に北東アジア着スポット市況 (NEA Quotes) 対比のプレミアム/ディスカウントを設け、Natural Gas FuturesにNEA Quotesを掲載する。北東アジア着のスポット市況に連動した取引が多くなっているため。
- ②FOB Atlantic、DES South Americaにそれぞれ蘭天然ガス (TTF) 市況対比のプレミアム/ディスカウントを設ける。DES Europeは英天然ガス (NBP) 市況対比のプレミアム/ディスカウントを削除する。TTF連動の取引が多くなる一方、NBP連動の取引が減っているため。
- ③Freightを東西ごとに評価する。スポットフレート市場はスエズ運河を分岐点に、東西で評価するのが主流になっているため。DFDEとTFDE、MEGIとX-DFはそれぞれ同じ評価対象として統合する。MEGIとX-DFはMEGA型も含めた「2 Stroke Tankers」という名称とする。船型 (エンジンタイプ) ごとの評価は蒸気タービン/ディーゼル/2ストロークに類別されるケースが多くなっているため。Conventional Tankersは「Steam Tankers」と表記する。TFDEやMEGIの船が標準的な船型になりつつあるため。
- ④各市場の評価対象を再定義。メソドロジーの各文言も必要に応じて修正する。

価格評価方法の適切性

リム情報開発株式会社（以下「当社」とする）が、レポート上で公開するすべての価格評価の目的は、エネルギー業界の関係各社に対して商談が成立可能な水準を示すことで、透明性の高い、より適正な価格での取引を進められるようにすることにある。当該目的を達成するため、当社は以下に記載する「価格評価の一般原則」およびレポート毎の価格評価方法を定めている。当社は当該目的を達成するために必要と判断するすべての基準と手続を「価格評価の一般原則」およびレポート毎の「価格評価の原則」に含めており、これを遵守して価格評価を実施することから、当社の価格評価方法は適切であると判断している。

第1章 価格評価の一般原則

第1条（価格評価の目的）

当社が実施し、レポート上で公開するすべての価格評価の目的は、エネルギー業界の関係各社に対して商談が成立可能な水準を示すことで、透明性の高い、より適正な価格での取引を進められるようにすることにある。

第2条（価格評価の実施）

第1条に定めた目的を達成するため、当社は「価格評価の一般原則」およびレポート毎の価格評価方法（以下「アセスメントメソドロジー」とする）内に以下の項目を定め、これらに従って価格評価を実施する。

- 価格評価対象となる取引
- 価格評価対象となる対象時間取引
- 価格評価の優先順位
- 取材先の選定
- 取材方法
- スーパーバイザーの設置および役割
- スーパーバイザーの選定
- スーパーバイザーによるレビュー品質の維持
- 価格評価の整合性および一貫性の保持
- 市場情報の信頼性および充分性
- アセスメントメソドロジーの公開
- アセスメントメソドロジーの定期的な見直し
- アセスメントメソドロジーの変更
- 評価価格の変更および訂正
- 受渡数量基準
- 特定の数量単位（バレル等）が用いられる理由

第3条（価格評価対象となる取引）

各インデックスにおいて、もっとも流動性がある数量、期間、地域を価格評価の対象とする。価格評価の対象とする取引の詳細については、その対象となる数値数量、参考として考慮される市場情報、価格評価に用いられる「リムトレーディングボード」内の情報、および取引所等の特定市場情報とあわせてレポート毎のアセスメントメソドロジー内に記載することとする。

第4条（価格評価対象となる対象時間取引）

各インデックスにおいて、日本を含むアジア時間における取引のうち最も有効かつ利便性

があると当社が判断する時間を価格評価の対象時間とする。詳細については、レポート毎のアセスメントメソドロジー内に記載することとする。

第5条（価格評価の優先順位）

各インデックスにおいて、相対取引、他の取引市場での成約価格、買唱え、売唱えのうち、価格評価のために採用する市場情報、および採用する市場情報が複数存在する場合の優先順位を定める。詳細については、レポート毎のアセスメントメソドロジー内に記載することとする。

第6条（取材先の選定）

市場情報の収集にあたり、売り手、買い手に偏りがないように、取扱量の多さ、市場に与える影響力等を鑑みて選出した複数のメジャー、産油会社、産ガス会社、石油会社、トレーダー、商社、ディーラー、需要家等に取材を実施することとする。
各レポートチームは、取材先の地域性および取材先から取得した情報の種類について偏りがないか検討することとする。取材先の地域性や情報の種類に偏向性を認識した場合には、取材担当者とチームリーダーで取材先からの除外を検討する。検討の結果、取材先から除外すべきであると判断された場合には、社長の承認を得た上で取材先から除外する。

第7条（取材方法）

中立性、公正性の観点から適切な資質および技術を有していると当社が判断する取材担当者が、電話を主体に電子メール、チャット等を駆使して取材を行うこととする。取材先担当者の信頼性を確保するために、原則として取材先の会社へ直接電話することにより、当該担当者が在籍していることを確認することとする。

第8条（スーパーバイザーの設置および役割）

各レポートに対して、2名以上のスーパーバイザーを設置する。レポート公表前に、各レポートに設置されたスーパーバイザーのうち少なくとも1名が、価格評価がアセスメントメソドロジーに遵守して行われており、整合性および一貫性が保持されているかという観点からレビューを実施することとする。

第9条（スーパーバイザーの選定）

スーパーバイザーは、価格評価対象商品および市場について十分な経験および知識を有したものを、取締役会の承認を得た上で選定することとする。スーパーバイザーは、担当するレポートの価格評価および記事作成に携わらないものとする。

第10条（スーパーバイザーによるレビュー品質の維持）

スーパーバイザーによるレビューの品質が適切に保たれていることを確認するため、社長以外の者がスーパーバイザーとしてレビューを実施したレポートについては、定期的に社長によるスポットチェックを行うこととする。スポットチェック実施後は、当該スポットチェックの証跡を保管することとする。

第11条（価格評価の整合性および一貫性の保持）

価格評価の担当者間での価格評価結果の整合性および一貫性を保持するため、スーパーバイザーによるレビューの他、価格評価シミュレーションを定期的実施することとする。

第12条（市場情報の信頼性および充分性）

各価格評価の担当者は、取材先より取得した市場情報が関連当事者との取引に関する情報、恣意的な情報その他異常な情報でないかを当該取材先および他の複数の取材先に確認し、

必要に応じて精査することとする。関連当事者との取引情報や恣意的な情報等の異常な市場情報が検出された場合には、追加取材により裏付けをとることで価格評価に採用する市場情報から除外するか否かを判断することとする。また、重大な事項については速やかにスーパーバイザーおよび社長に報告することとする。これらのうち重要な専門家判断は、各レポートチームの取材メモ、アセスメント経緯シート等に記録することとする。情報提供者から提供された市場情報が恣意的なものでないことを確認する必要がある場合は、必要に応じて情報提供者のバックオフィスから情報を得ることを検討することとする。一部の流動性の低い市場においては、価格評価に使用する市場情報が単一の取材先からのみ得られる場合がある。そのような場合においても、本アセスメントメソドロジーに定める手続により当該市場情報が価格評価のために採用可能であるかどうかを判断することとし、当該市場情報が単一の取材先からのみ得られている事実をもって、価格評価に採用する市場情報から除外すべきであるとは判断しないものとする。情報提供者に対しては、アセスメントメソドロジーをWEB上に公開し、また協力を要請することで、当社が定める価格評価方法上の条件を満たすすべての市場情報が提供されるものと期待している。

第13条（アセスメントメソドロジーの公開）

2名以上の取締役承認されたアセスメントメソドロジーは、当社のWEB上にアップロードし、外部取引先、情報提供者、購読者等が入手可能な状態で管理することとする。

第14条（アセスメントメソドロジーの定期的な見直し）

アセスメントメソドロジーは年1回（毎年10月開催の取締役会時）、および商品市場に重大な変更があった場合に見直しを実施する。見直しの結果、必要であると認められた場合においてはアセスメントメソドロジーの変更を検討することとする。アセスメントメソドロジーの見直しを実施するにあたっては、外部取引先、購読者など有識者から聞き取った意見を参考にする。

第15条（アセスメントメソドロジーの変更）

価格評価方法に影響を与えるアセスメントメソドロジーの変更が必要と判断された場合、関連するレポートチーム内で十分に議論した上で変更点を稟議事項とし、2名以上の取締役の承認を得ることとする。2名以上の取締役による変更点の承認後、アセスメントメソドロジー変更の原則として1カ月前、少なくとも2週間前までに、アセスメントメソドロジー変更を実施する旨、および変更日を各レポート上で告知することとする。

2名以上の取締役による変更点の承認後、当該変更点を反映したアセスメントメソドロジーを変更日までに2名以上の取締役により承認するものとする。

価格評価方法に影響を与えるアセスメントメソドロジーの変更にあたっては、外部取引先、購読者などの利害関係者から変更内容に関する質問を受け付けることとする。当該質問およびこれに対する当社の回答については原則としてレポートまたはWEB上で公開することとするが、利害関係者が非公開を希望する場合、その他利害関係者との信頼関係を保持するために必要であると当社が判断する場合は非公開とする。

価格評価方法に影響を与えないアセスメントメソドロジーの訂正については、2名以上の取締役による承認を受けた後に、レポート上で訂正に関する告知を行い、速やかに訂正を反映する。

第16条（評価価格の変更および訂正）

レポート上で公開した評価価格については、公開後に変更を実施しないこととする。ただし、誤字、脱字、タイプミスによる訂正は除く。

第2章 LNGにおける価格評価の原則

1. スポットLNG相場

価格評価の目的：

価格評価の目的は、レポートの発行日に取引された標準的なスポット売買の実勢相場を表すことにある。

価格の定義：

取引が成立しない場合でも製品の価値は変動するものとする。価格とは、変動する製品の価値を計るものとする。製品の価値は、需給や生産コスト、他の市場状況やプレーヤーの観点によって変動するものとする。

評価の方法：

価格評価は、レポート発行日に得た成約情報、売買唱え、需給状況が基本的な要素となる。このうち価格評価時間内で、最新の成約、売唱え、買唱えを最優先に評価価格を確定する。成約、売買唱えがない場合は、売り気配、買い気配を参考にする。売り手と買い手の競争によって製品の価格が決定するものとする。「高い売唱え」に比べて「低い売唱え」、また「低い買唱え」に比べて「高い買唱え」が評価される価格となる。カーゴの数量や荷積み/荷揚げ時期、品質や支払期間といった標準的な規格や条件を基に評価の対象に組み込むものとする。価格評価はすべて、取材記者が各営業日に市場調査で得た情報に基づく。

評価対象期間：

評価対象月を前半と後半に分ける場合、前半を1～15日、後半を16日～末日とする。

価格単位：

百万英国熱量単位(以下 mmBtu)あたりの米国ドルとする。LNG産業では、mmBtuあたりのドルをもとに取引することが慣習であり、これに沿って単位を規定している。

対象数量：

標準船型(13万5,000～17万5,000立方メートル)に積み込まれる6万～8万トン前後の1カーゴ分とする。標準数量から外れる場合でも、価格評価の参考とすることがある。

価格評価の品質：

発熱量が1標準立方フィート当たり1,030～1,130BtuのLNGを基本とするが、この水準を外れた品質のものも対象とする場合がある。

価格評価の時間帯：

レポート発行日の東京時間17時に締め切る。

(1) DES Japan (DJ)

[形態]

着棧橋渡し(Delivery Ex Ship、DES)。

[地域]

日本。DES Northeast Asia など他の市場で取引された成約価格、売買唱えを参考にすることもある。

[価格評価]

固定価格で評価する。評価価格に値幅は設けない。

・ DES Japan の現物カーゴの成約がない場合は、DES Japan の現物カーゴ市場で得られた買唱えの最高値および売唱えの最低値を基準に、その中間値を評価価格とする。ただし、売唱えと買唱えが大幅に離れており、その中間値に合理性がないと判断される場合は、中間値を採用せず、売買唱えの範囲内で価格を評価する。DES Northeast Asia など他の市場での成約価格や、売買唱えを参考にする。

・ DES Japan の現物カーゴの取引がなく、また、売買唱えすら表示されない場合、DES Northeast Asia など他の市場での成約価格や、売買唱えを参考に価格を評価する。

・ DES Japan の現物カーゴの売唱えの最低値が、買唱えの最高値を下回った場合、その時の市場の状況を精査し、両値とも合理的な価格として判断されるケースは、これら最低値、最高値をもとに価格評価する。

・ DES Japan の現物カーゴ市場で取引がありながら、当該日の締切り時間前に取引価格より高い買唱え、または低い売唱えが提示された場合、その時点での市況の傾向、需給動向など市場の状況を精査し、その買唱えまたは、売唱えが合理的と判断される場合、同取引価格と、その買唱えまたは売唱えをもとに価格評価する。

[対象の期間]

期先 12 カ月分を対象とする。DES Japan の現物カーゴ市場の場合、2. LNG 日本着 (DES Japan) 以外の価格評価の対象の Northeast Asia - 北東アジアの Northeast Asia (DES) を参照する。

(2) Northeast Asia (DES)

① Northeast Asia (NEA)

[形態]

着棧橋渡し (Delivery Ex Ship、DES)。

[地域]

日本、韓国、台湾、中国。タイやベトナムなど東南アジアにある揚げ地も参考とすることがある。

[価格評価]

固定価格、および北東アジア着のスポット市況 (NEA Quotes) に対する格差 (プレミアム/ディスカウント) で評価する。固定価格と NEA Quotes の関係性は以下のとおり。

$$\text{固定価格} = \text{NEA Quotes} + \text{プレミアム/ディスカウント}$$

NEA Quotes は原則として、ICE (インターコンチネンタル取引所) での前日の終値を採用する。

[期間]

< レポート発行日が月前半の場合 > 翌月の後半および翌々月の前半、後半

< レポート発行日が月後半の場合 > 翌々月の前半、後半および 3 カ月先の前半

② RIM Northeast Asia Index (RIM Index)

NEA の受渡し 3 期間の価格評価の当日の平均。

③ RIM Index Monthly Cumulative Avg

RIM Index の月間累積平均。例えば、同月 20 日の RIM Index は、1~20 日のレポート発行日における RIM Index の累積平均値を示す。

④ Northeast Asia Forward (NEA Forward)

[形態]

着棧橋渡し (Delivery Ex Ship、DES)。

[地域]

日本、韓国、台湾および中国。

[期間および算定方法]

レポート発行日が属する月から、3~9 カ月先に到着するカーゴとする。期先の月間格差は、JCC (Japan Crude Cocktail)、ICE ブレント原油、ICE 蘭天然ガス (TTF) 市況先物相場などのフォワードカーブ、需給要因などを踏まえて算定する。

⑤ Northeast Asia Seasonal Index (NEA Seasonal Index)

Northeast Asia Forward の 6 カ月分の価格評価をもとに、3 カ月ごとに区切った各シーズンの平均値を算定する。Spring (春) を 4~6 月期、Summer (夏) を 7~9 月期、Autumn (秋) を 10~12 月期、Winter (冬) を 1~3 月期と分類したうえで、各シーズンに受渡しされるカーゴの価格評価の平均を提示する。価格評価の対象シーズンおよび、同価格評価の期間は、以下の通り。

対象シーズン 価格評価の掲載時期

-Spring (4~6 月) = 9 月 16 日~3 月 15 日

-Summer (7~9 月) = 12 月 16 日~6 月 15 日

-Autumn (10~12 月) = 3 月 16 日~9 月 15 日

-Winter (1~3 月) = 6 月 16 日~12 月 15 日

(3) Others

① Middle East (FOB)

[形態]

積地渡し (Free On Board、FOB)。

[地域]

カタール、オマーン、UAE、イエメン、およびエジプト。中近東にある他の積み地も参考とすることがある。

[価格評価]

固定価格で評価する。

[期間]

<レポート発行日が月前半の場合> 翌月の前半、後半および翌々月の前半

<レポート発行日が月後半の場合> 翌月の後半および翌々月の前半、後半

② Middle East (DES)

[形態]

着棧橋渡し(Delivery Ex Ship、DES)。

[地域]

クウェート、UAE、ヨルダン、バーレーン、イラク、エジプト。中近東にある他の揚げ地も参考とすることがある。

[価格評価]

固定価格で評価する。

[期間]

<レポート発行日が月前半の場合>翌月の前半、後半および翌々月の前半

<レポート発行日が月後半の場合>翌月の後半および翌々月の前半、後半

③ South Asia (DES)

[形態]

着棧橋渡し(Delivery Ex Ship、DES)。

[地域]

インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ。

[価格評価]

固定価格で評価する。

[期間]

<レポート発行日が月前半の場合>翌月の前半、後半および翌々月の前半

<レポート発行日が月後半の場合>翌月の後半および翌々月の前半、後半

④ Atlantic(FOB)

[形態]

積地渡し(Free On Board、FOB)。

[地域]

米国、赤道ギニア、トリニダードトバゴ、ナイジェリア、アンゴラなど、大西洋に面した国や地域。ノルウェーやロシア(極東方面は除く)、アルジェリア、欧州の輸入基地から再輸出されるカーゴも参考とすることがある。

[価格評価]

固定価格、および TTF 市況に対する格差(プレミアム/ディスカウント)で評価する。固定価格と TTF 市況の関係性は以下のとおり。

$$\text{固定価格} = \text{TTF 市況} + \text{プレミアム/ディスカウント}$$

TTF 市況は原則として、ICE(インターコンチネンタル取引所)での前日の終値を採用する。

[期間]

<レポート発行日が月前半の場合>当月の後半および翌月の前半、後半
<レポート発行日が月後半の場合>翌月の前半、後半および翌々月の前半

⑤ Europe (DES)

[形態]

着棧橋渡し(Delivery Ex Ship、DES)。

[地域]

イギリス、フランス、ベルギー、オランダ、ドイツ、スペイン、ポルトガル。地中海や北
欧も含め、ヨーロッパにある他の揚げ地も参考とすることがある。

[価格評価]

固定価格、および TTF 市況に対する格差(プレミアム/ディスカウント)で評価する。固定
価格と TTF 市況の関係性は以下のとおり。

$$\text{固定価格} = \text{TTF 市況} + \text{プレミアム/ディスカウント}$$

TTF 市況は原則として、ICE(インターコンチネンタル取引所)での前日の終値を採用する。

[期間]

<レポート発行日が月前半の場合>当月の後半および翌月の前半、後半
<レポート発行日が月後半の場合>翌月の前半、後半および翌々月の前半

⑥ South America (DES)

[形態]

着棧橋渡し(Delivery Ex Ship、DES)。

[地域]

ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、チリ。南米にある他の揚げ地、メキシコやドミニ
カ共和国など中米の揚げ地も参考とすることがある。

[価格評価]

固定価格、および TTF 市況に対する格差(プレミアム/ディスカウント)で評価する。固定
価格と TTF 市況の関係性は以下のとおり。

$$\text{固定価格} = \text{TTF 市況} + \text{プレミアム/ディスカウント}$$

TTF 市況は原則として、ICE(インターコンチネンタル取引所)での前日の終値を採用する。

[期間]

<レポート発行日が月前半の場合>当月の後半および翌月の前半、後半
<レポート発行日が月後半の場合>翌月の前半、後半および翌々月の前半

2. 傭船相場

価格評価の目的：

価格評価の目的は、レポートの発行日に取引された標準的なスポット傭船の実勢相場を表すことにある。

価格の定義：

取引が成立しない場合でも製品の価値は変動するものとする。価格とは、変動する製品の価値を計るものとする。製品の価値は、需給や生産コスト、他の市場状況やプレイヤーの観点によって変動するものとする。

評価の方法：

価格評価は、レポート発行日に得た成約情報、貸し、借りの唱え、需給状況が基本的な要素となる。このうち価格評価の時間内で、最新の成約、貸し唱え、借り唱えを最優先に確定する。成約、貸し、借り唱えがない場合は貸し気配、借り気配を参考にする。貸し手と借り手の競争によって傭船価格が決定するものとする。「高い貸し唱え」に比べて「低い貸し唱え」、また「低い借り唱え」に比べて「高い借り唱え」が評価される価格となる。傭船時期や傭船期間といった標準的な規格や条件を基に評価の対象に組み込むものとする。価格評価はすべて、取材記者が各営業日に市場調査で得た情報に基づく。

対象船舶：

容量が 13 万 5,000～17 万 5,000 立方メートルの LNG 船。エンジンタイプは以下の船を対象とする。ただし、これ以外の LNG 船に関する傭船価格も考慮する場合がある。

- (a) Steam (蒸気タービン推進機関)
- (b) DFDE (二元燃料ディーゼル機関)
- (c) TFDE (三元燃料ディーゼル機関)
- (d) MEGI (船用電子制御式ガスインジェクション二元燃料ディーゼル機関)
- (e) MEGA (低圧otto-サイクル方式二元燃料ディーゼル機関)
- (f) X-DF (希薄予混合燃焼方式二元燃料ディーゼル機関)

評価対象期間：

3 カ月未満の短期傭船。

価格評価の時間帯：

レポート発行日の東京時間 17 時に締め切る。

評価の対象：

(1) 航路別

[評価の対象]

3 カ月未満の短期傭船価格を航路ごとに評価する。

- (a) 中東～北東アジア
- (b) 大西洋圏～北東アジア
- (c) 大西洋圏～欧州
- (d) 中東～欧州

[価格単位]

mmBtu あたりの米国ドルとする。

[価格評価の条件]

以下の条件を考慮して価格を評価する。

① 航海日数および地域

積み地から揚げ地までの 1 航海、すなわち「ワントリップ」を基準とする。航海日数は以下のとおり。

- (a) 中東～北東アジア：30 日
- (b) 大西洋圏～北東アジア：60 日
- (c) 大西洋圏～欧州：15 日
- (d) 中東～欧州間：22 日

それぞれの地域は以下の国を含む。

- ・ 中東：UAE、カタール、オマーン、イエメン、エジプト
- ・ 北東アジア：日本、韓国、台湾、中国
- ・ 大西洋圏：米国、赤道ギニア、トリニダードトバゴ、ナイジェリア、アンゴラ
- ・ 欧州：イギリス、フランス、ベルギー、オランダ、ドイツ、スペイン、ポルトガル

② 傭船料 --- (2) 船型(エンジンタイプ)別に評価された短期傭船料等を参考にする。

③ 船舶燃料費 --- リムが当日にバンカーオイルのレポート上で評価する、東京湾、シンガポール港およびロッテルダム港における VLSFO の価格評価。

④ 気化損失額

⑤ 積み地および揚げ地での諸費用(ポートチャージ) --- 中東～北東アジア間の価格評価の参考とする。ただし、他航路を含めて、ポートチャージは情報を入手できた場合に限り参考とする。

⑥ スエズ運河の通行料 --- 情報を入手できた場合に限り参考とする。

(2) 船型(エンジンタイプ)別

[評価の対象]

3 カ月未満の短期傭船を 1 日あたりの価格として評価する。船型は以下の 3 つに分類する。

- ① Steam
- ② DFDE/TFDE
- ③ 2 Stroke (MEGI、MEGA、X-DF)

[地域]

スエズ運河を境として、スエズ運河より東の「スエズ以東」と、スエズ運河より西の「スエズ以西」に分けて評価する。

[価格単位]

米国ドル。

3. 参考価格

(1) JCC (Japan Crude Cocktail)

[JCCの予想値]

予想値は、日本着のフレート(船運賃)保険料込みの価格。

[算出方法]

ドバイ原油の水準をもとに、期先の価格を算出する。価格の算定基準となる項目は以下の通り。

- ・ドバイ原油価格
- ・ドバイ原油との格差
- ・フレート(船運賃)
- ・保険料

これら価格を積み上げ JCC の予想値を算出する。

[価格単位]

原油市場における一般的な価格単位であるバレルあたりの米国ドルで表記する。mm Btu あたりの米国ドルでも表記する。

(2) Natural Gas Futures Settlement Prices

レポート発行日の前日にニューヨーク・マーカンタイル取引所(NYMEX)、およびインターコンチネンタル取引所(ICE)で取引された天然ガス先物市況を掲載する。価格単位は mmBtu あたりの米国ドルに換算する。掲載項目は以下のとおり。

- ① NYMEX HH (Henry Hub) --- 米国天然ガス市況
- ② ICE NBP (National Balancing Point) --- 英国天然ガス市況
- ③ ICE TTF (Title Transfer Facility) --- オランダ天然ガス市況

レポート発行日の前日に ICE で取引された北東アジア着 LNG のスポット先物市況も④「ICE NEA Quotes」として掲載する。価格単位は mmBtu あたりの米国ドル。

(3) 原油価格など

原油価格や石油製品価格、電力価格、各国の LNG 輸入統計価格などを参考として掲載する。